

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	主体的・対話的で深い学びをとおして確かな知識・技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を向上させる。	中間評価		最終評価
		協働学習支援ソフトやデジタルドリルの活用、データでの課題作成・提出などとおしてタブレット端末を使った学習をより日常化する。			

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調書くこと、読むこと、言語についての知識・理解・技能の各観点では、全国及び区の結果を上回っている。一方、話すこと・聞くことのポイントが、全国・区より下回っている。</p> <p>学1年生は、授業や学習に取り組む意欲が高い。</p> <p>学2年生は、概ね落ち着いた態度で主体的に授業に取り組んでいる。</p> <p>学3年生は、課題を把握して主体的に取り組む力や態度に個人差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書く」ことへの苦手意識をもつ生徒がいる。また、文字が乱雑な生徒や漢字を避けて平仮名だけの文章を書く生徒もいるため、書字について重点的に指導する必要がある。</li> <li>人前で自分の意見を発表することに苦手意識をもつ生徒への指導を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書く」ことに重点を置いた指導を行う。普段のノート記入やワークシートへの記入、授業の感想や学習の振り返りなど、書く学習を折々に設定し、添削を行う中で書字指導を個別に行い正確で丁寧な字を書くことができるようにする。</li> <li>学習内容に沿ってプリントをファイルする指導を行うこととおして学習の系統性を意識させる。</li> <li>スピーチや討論以外にペアトークやグループでの話し合い活動を設定することとおして自分の意見をまとめる力を段階的に身に付けさせる。</li> </ul>		
社会	<p>学各学年とも意欲的に取り組む生徒が多いが、一部に学習内容に対して興味・関心を抱くことが難しく、授業に集中することが難しい生徒もいる。</p> <p>調基本的な知識を問う問題とともに、思考力や表現力が必要な問題への正答率が比較的高い。</p> <p>学複数の資料から必要な情報を抽出し、関連付けて説明したり、事象について自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもつ生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な知識などの既習事項の定着状況に差が見られるため復習指導に重点を置く必要がある。</li> <li>選択肢がある中で考えたり表現したりする力は伸びているが、自分の考えを表現することに苦手意識をもつ生徒への指導が必要である。</li> <li>資料を深く読み解いたり、関連付けたりすることや、人前で自分の考えを表現することについて指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の確実な定着を図るために、手作り問題集を作成し、基本的な知識を復習させるとともに、授業の終末で要点をまとめさせることとおして学習内容を振り返ることができるようにする。</li> <li>ワークシートやノートを活用し、複数の資料を比較する活動とおして、事象を関連付けながら考察できるようにする。また、考察を根拠に、グループや学級内で発表する活動とおして応用力を身に付けることができるようにする。</li> </ul>		
数学	<p>学落ち着いた授業に取り組んでいる。「頑張りたい」「問題を解けるようになりたい」という思いをもっている生徒が多く、意欲的にまた、積極的に学習に取り組んでいる。</p> <p>学物事を数学的に捉えることがまだ十分身に付いていない生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の学習の習得状況に差があるため基礎・基本の習得に課題のある生徒への指導をさらに進める必要がある。</li> <li>自分の意見を書くことはできるが、他の生徒に説明したり、発表したりすることに苦手意識をもつ生徒への指導を行う必要がある。</li> <li>生活に身近な物事を数学的に捉える学習を意図的・計画的に取り入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力して学習に取り組む場面を設定し、教え合うこととおして互いに学習内容への理解を深めることができるようにする。</li> <li>習熟度別少人数授業を活用し、基礎・基本の定着に重点を置く生徒と、応用力の伸長を図る生徒とで、それぞれ個に応じた指導を行う。</li> <li>グループ活動や発表活動とおして、表現力を伸ばし、学び合うこととおして理解を深め応用力を身に付けることができるようにする。</li> <li>生活に身近な課題のレポート作成とおして、物事についての数学的な理解ができるようにする。</li> <li>タブレット端末を活用して家庭でもデジタルドリルに取り組ませる。</li> </ul>		
理科	<p>学理科に対する興味・関心をもち、意欲が高い生徒が多い。</p> <p>学事象を科学的に思考したり、他の事象と結び付けて考えたりする力がまだ十分身に付いていない生徒がいる。</p> <p>調基本的な知識を問う問題や計算問題では比較的正答率が高いが、思考力が必要な問題においては全体的に正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解決するための方法を見出す力をさらに育成する必要がある。</li> <li>思考及び表現することに苦手意識をもつ生徒への指導が必要である。</li> <li>用語の意味を正確に理解できていないために基礎的・基本的な内容の定着に課題のある生徒がいる。したがって用語の意味について丁寧に指導を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用して問題を提示し、解決する方法をグループで協力して考えさせることとおして理解を深めることができるようにする。</li> <li>グループ活動とおして、思考力や表現力を相互に高めさせる。</li> <li>デジタルドリルを活用して、定期的に課題や小テストに取り組ませることとおして予習・復習を習慣化させ、基本的な用語の意味を理解し学習意欲を高めることができるようにする。</li> </ul>		
英語	<p>学1年生は基本的な学習習慣や授業規律がまだ身に付いていない生徒がいる。</p> <p>学2年生は基本的な学習習慣や授業規律に加えて、主体的にコミュニケーションをとる意欲が十分ではない生徒が一部にいる。</p> <p>学3年生は、概ね落ち着いた態度で意欲的に授業に取り組んでいる。口頭でのやりとりはできて正確に書くことができないため、英作文の能力を向上させることが必要な生徒が一部にいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の習得状況に個人差はあるものの、全体として「書く力(表現力)」と「知識・理解」をさらに伸ばすこと、4技能【聞くこと・読むこと・話すこと(やりとり)・発表】・書くこと】を総合的に育成することが必要である。</li> <li>ICT機器の利点を生かした効率的で分かりやすい授業展開の工夫をさらに進めることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は基礎となる学習習慣を身に付けさせるとともに、口頭練習を中心としながら書く力を伸ばせるようにする。</li> <li>2年生はALTとの英作文Q&amp;Aに着実に取り組ませることとおして表現力を高める。</li> <li>3年生は自己表現英作文の練習を徹底し、確かな表現力を身に付けさせる。</li> <li>全学年で、英作文に継続的に取り組む。また、家庭での予習・復習のための指導や授業の活性化のためのツールの一つとしてタブレット端末を活用し、社会でも活用できる技能と英語力を身に付けさせる。</li> </ul>		